

(特非)グリーンパートナーおかやま

つり環境ビジョン
助成

1年目

実践



海ごみから流域環境を 考えるプロジェクト

里海シンポジウム
の参加者数 **73人**

底曳網体験学習
(二か所)の参加者数 **124人**

活動の全体目標に
対する達成度 **25%**

課題

瀬戸内海には13,000トンもの海底ごみが存在すると推計されています。ほとんどが生活系ごみなのに住民の関心は低く、ごみの発生抑制につながっていません。

活動内容

- 有識者を招き「里海シンポジウム」を開催し、海ごみの実態や新しい課題であるマイクロプラスチックなどについて啓発活動を行いました。
- 底曳網体験学習「海底探検隊」を実施し、ごみが水揚げされるのを見てもらいました。ワークショップなどを通じて、この問題を参加者自身に考えてもらう仕組みにより、環境保全意識の向上を図りました。
- 河川ごみの実態調査を行ったほか、河川敷の一斉清掃を実施しました。



生活ごみが大量に水揚げされました

今後の課題

香川県との連携をより強化するとともに、ライオンズクラブなど他団体との一層の連携・協力をめざします。また、実施体制を強化することにより発信力を高めていきたい。

成果と工夫した ポイント



成果

二つの団体から新たに講演依頼があるなど、関心を持つ個人・団体は増えていて、課題解決に向けたネットワーク化が進んでいます。また、海底探検隊は二か所で実施したことで、例年より子どもたちの参加も増えました。

工夫

バンド演奏やネイチャーゲームなど、幅広い層が楽しめる内容としたほか、新聞への事前告知も行いました。